No.627

法音

令和4年
1月号

日蓮宗 法音寺

今月のご法話

あきらめずに徳を積み続けましょう

勇猛精進

至誠（まこと）

今日一日
奉仕の心がけで働きましょう
今日一日
人を喜ばせるように働きましょう
今日一日
たゆまず続けてゆきましょう

月刊・法音　令和４年１月号 No.627　目次

【信仰の指針】不抜（ふばつ）　夜明け前が最も暗いのです　3
新年のご挨拶　鈴木正修　4
年頭所感　鈴木修徳　8
『久遠偈』写経のこころ　鈴木廣修　12
【朝のこない夜はない】
あきらめずに徳を積み続けましょう　山首　鈴木正修　16
〔年賀〕
◆仏教説話・因縁 因果のこと　31
◆五十萬巻 御報恩納経　妙法蓮華経　久遠偈　35
◆写経の作法　43
◆知っているようで知らなかった!?法音寺のこと㉕　44
◆お寺の本棚　46
◆SDGsと法音寺三徳　50
◆久遠偈を学ぶ①　52
◆のりのね体験　56
◆支院だより　60
◆福祉のひろば　62
○幸せのお手伝い　77
○昭徳会・第14回 福祉実践発表会 日本福祉大学で開催　78
○日本福祉大学・第33回日本福祉大学社会福祉セミナー開催　80
◆幸せの種まき／編集後記　82
◆連載まんが・ひまわり・108　運命　84
◆令和四年・法音寺年間行事のご案内　85

表紙題字・信仰の指針　山首上人さま　書　表紙写真・胡蝶ラン
掲載写真　表紙・扉・16頁～31頁・裏表紙：梅田雅臣氏撮影
信仰の指針：加納将人氏撮影

他(た)をめぐみ
我(われ)を忘(わす)れて物事(ものごと)に
慈悲(じひ)ある人(ひと)を
仁(じん)と知(し)るべし

『御開山上人御詠(ごかいさんしょうにんぎょえい)』

福寿草

信仰の指針

不抜（ふばつ）

夜明け前が
最も暗いのです

日教正

新年のご挨拶

鈴木正修

令和四年壬寅正月を迎え、皆さま方に心より新春のお慶びを申し上げます。

昨年、一昨年とコロナ禍の中、皆さまつらく不自由な日常を過ごしてこられたことと思います。今年こそはこのパンデミックが終息

に向うことを切に願っております。

「不易」という言葉があります。〝変わらない〟ということです。「万古不易」、「千歳不易」とも言います。〝時代がいくら変わっても、不変なものがある〟ということです。

不易・不変なものとは「功徳」です。功徳の力と言ってもよいと思います。昨今のように急な変革があっても、どんなに時代が変わろうとも、功徳に勝るものはありません。

始祖杉山先生は苦修練行の末に因果の理法を悟られ、行住坐臥の唱題と三徳の実行に勝る幸福への道はないことを体得され、明治42

年に「仏教感化救済会」を創立されました。杉山先生が言われています。

「成仏の道を学び、実行して幸福を得、出世をして世間の人々にその範を示し、絶大なる妙法の偉力を国内はおろか、海外にまで宣伝流布せしめんとするのが仏教感化救済会の目的であります」

このお言葉でわかるように、杉山先生はこの世を功徳の力によって仏さまの世界、即ち「我此土安穏　天人常充満」の世界にしたいと考えられていたのです。

杉山先生の弟子として連なる我々は、その志の実現のために日々

功徳を重ねていかなければなりません。

この度、その一環として令和13年に迎える、「始祖廣宣院殿安立大法尼　第百遠忌、御開山恭山院日進上人　第七十遠忌」をめざして、久遠偈（我此土安穏より）の五十萬巻御報恩納経を発願いたしました。

僧俗一体となって憶持不忘の善根である書写行を本年より心新たに勤めて参りたいと思います。

どうぞ宜しくお願いいたします。

皆さまの本年のご多幸を衷心よりお祈り申し上げます。

年頭所感

鈴木 修徳

至誠の心でお題目を唱えましょう

令和四年の元日にあたり、皆さまに心より初春のお慶びを申し上げます。

昨年は御報恩納経が百万巻達成されました（欲令衆六十六万六千五百九十巻、宝塔偈三十三万三千四百十巻）。これは皆さまの勇猛精進の積み重ねであります。そして、本年より新たな御報恩納経が始まります。書写していただく経典は「妙法蓮華経　久遠偈」です。

日蓮聖人御遺文観心本尊鈔に「仏既に過去にも滅せず　未来にも

生ぜず　所化以て同体なり」とありますように、仏さまは常に私達とともにあります。皆さまの心のこもった一筆一筆は確実に仏さま、法音寺先師の方々に通じています。

「我閻浮提の太陽とならん」と誓願された始祖杉山先生は、今も温かい心で私達を照らしてくださっています。二祖村上先生は「私の体はなくなっても魂はここにいて、今までよりも働きます」と言い遺され、御開山上人もまた「魂は永く法音寺に留まって檀信徒を守護します」と御守護を誓われました。今日、杉山先生、村上先生、御開山上人、日達上人に直にお目にかかることはできませんが、山首上人さまを通してそのお徳をいただくことができます。そのために、至誠の心でお題目を唱えましょう。

御開山上人は「お題目の唱え方」について次のようにやさしく教化してくださっています。

「杉山先生は、

『たゆみなくお題目を唱えなさい。災難を逃れることもできます。自分の働きが都合良くなり、幸福を招く基となりますので、行住坐臥と言って、仕事をしている時でも、道を歩く時でも、寝ている時でも唱えましょう』

とお教えくださいました。（中略）身体の痛い時、苦しい時唱えますと、きっと身体が楽になります。

悲しい時、苦しい時には理屈なしに唱えましょう。また、人にも唱えてあげましょう。法座の時でも、お題目会の時でも、心の苦し

い人、痛いところのある人にはお題目を唱えてあげましょう」

（『御開山上人御遺稿集』24頁）

これが始祖杉山先生以来、山首上人さまに至るまで変わらない法音寺のお題目の唱え方です。至誠の心で唱えるなら必ず仏さまに通じます。

本山では日々、山首上人さま御導師のもと、山内僧一同が朝夕のお勤めにお題目をお唱えして、皆さまのご先祖さまに回向しております。

皆さまにとって幸多き年になりますことを心よりお祈り申し上げます。

『久遠偈』写経のこころ

鈴木 廣修

謹んで、新年のお慶びを申し上げます。

この度、山首上人さまより五十万巻御報恩納経『久遠偈』の浄行を賜りました。

仏さまは、『久遠偈』の中で争いや災害の多い現世を的確に予言されています。しかし同時に、この世の本当の姿は、種々の宝と天人に満ちた安穏な浄土であるとも示されています。この安穏な姿に気づく唯一の道は、お題目・三徳を行じることにあると仏さまは仰

るのです。

仏さまは今この瞬間も、さまざまな手段・方便を用いて我々にその道を教示してくださっています。誠にありがたい大慈悲だと思います。

始祖杉山先生は、「法華経講習会」で次のように問われたそうです。

「『諸仏世尊は、衆生をして仏知見の道に入らしめんと欲する』という言葉がありますが、これは一体誰がすることでありましょうか」

そうしますと、誰もが「諸仏世尊」と答えました。しかし杉山先

生は、「それは間違いです。皆さんは、〝仏さまのおやりになることで、自分達には関係ない〟と思っているかもしれませんが、法華経を聞いた人は、それを〝自分がすること〟と思わなければいけません。それを実行することが法華経を受持することなのです」と仰ったのです。

このように、仏さまの大慈悲によりお題目・三徳の教えを受持した私達は、自らの身と心にもその大慈悲を宿す使命があります。その大慈悲とは、縁ある人々を法華経により感化救済していくことです。

これこそが、『久遠偈』に込められた仏さまからのメッセージであると思います。

仏さまが魂を打ち込んで説かれた『久遠偈』。それに一対一で向き合う書写行は、まさに仏さまとの真心の対話であると思います。

令和四年も、この『久遠偈』写経を通し、より一層精進して参りたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

あきらめずに
徳を積み続けましょう

昨年は崇明院日宣上人（鈴木宗保上人）の第四十三回忌の御報恩法要を勤めさせていただきました。日宣上人は日蓮聖人の御遺文の解説を講日毎にしておられました。今回そのご法話をまとめて御報恩供養として『転法輪　鈴木宗保上人の世界』という施本を出させていただきました。ぜひお読みいただきたいと思います。

日宣上人は、日達上人が32歳で法灯を継承されて以来、公私にわたって支えられました。当時は大変な財政難でした。御開山上人が中部社会事業短期大学（後の日本福祉大

学）を創られる時、厚生省から補助金が支給される予定でした。ところが、国が自衛隊の前身の警察予備隊をつくることになり、補助金がなくなりました。あてにしていたものがなくなったのでそれは大変でした。御開山上人は篤信の方々に協力を請い、寄付を募られました。それでもお金は足りませんでした。銀行からも毎年お金を借りられました。日達上人が大学の理事長・学長を継がれた時も、本当に経営は大変だったそうです。

御開山上人は「大学の経営が手に余るようだったら誰かできる方にお願いしてもよい」と、総代さん達に伝えられていたそうです。日達上人が引き継がれ、総代さん達がそのことを日達上人に伝えると、「大丈夫、なんとかなりますよ」と答えられたそうです。日達上人の「なんとかなりますよ」には根拠がありました。それはあるご法話の中に

ありました。一休禅師のお話です。あの頓智で有名な一休さんです。

一休禅師の晩年に応仁の乱が起こりました。これは十一年間も続き、戦国時代の幕開けとも言われています。足利幕府の御家人が、東西に分かれて京の都で戦争を続けたのです。都は焼け野原になりました。その時、一休禅師は大徳寺という臨済宗の大きなお寺にいましたが、大徳寺も戦災で丸焼けになってしまいました。

一休禅師が疎開しているところに、当時の天皇陛下から「大徳寺を復興せよ」と勅命がありました。すぐに住職になるのですが、「わしは住職なんて性に合わない」とすぐにやめてしまい、前住職として復興に尽力しました。復興を成し遂げた後に、弟子達に遺言を残しています。

「また応仁の乱のようなことが起こるかもしれない。その時の心得として遺言を残す。この文庫に入れておくから、もしそういうことが起こったら、これを開けて見よ」と言いました。

その後、一休禅師が亡くなってすぐに弟子達がその遺言を見てしまいました。するとそこには「なんとかなる」と書かれていました。日達上人に「おもしろい話ですね」とお伝えすると「本当だぞ」と言われました。「本当の話ですか」と聞くと、日達上人は「そういうことではない。本当のことというのは、〝あきらめなければなんとかなる〟ということだ。あきらめるから駄目なんだ。あきらめなければ必ずなんとかなるものだ」と言われました。

最近、ある漫画家さんの講演録を読みました。棚園正一

さんという方です。棚園さんは小学校・中学校の九年間不登校でした。その体験を漫画にされています。作品のタイトルは『学校へ行けない僕と9人の先生』です。

棚園さんが小学校一年生の時、授業で学芸会に向けた台本読みの練習がありました。みんなで読んでいきますが、棚園さんは、自分の読むところがわからなくなって、困ってしまったそうです。この時、保育園の先生が「わからないことがあったらすぐに先生に言いなさい」と教えてくれたことを思い出しました。そこで席を立って勇気を出して「先生、わかりません」と言いました。すると担任の先生は、棚園さんの顔を叩きました。わけがわからずもう一度「先生、わかりません」と言ったらまた叩かれました。棚園さんは「今ふりかえってみると、その先生は自分が反抗したように見えて、頭に血が上ったのではないか」と言っ

ています。それにしてもひどい話だと思います。

それから家に帰って、〝明日は絶対に叩かれないようにしよう〟と練習をしました。しかし上手く読めませんでした。すると〝また叩かれるのではないか〟という恐怖で、どんどん頭が痛くなってきて泣き叫んでいました。両親はその姿を見て心配になり、「救急車を呼ぼうか」と声をかけます。「そんなんじゃないんだ」と答えました。そこで学校であったこと、また叩かれると思うと恐くて頭が痛くなるということを打ち明けました。そして、次の日から登校しようとするとひどい頭痛がするようになり、不登校が始まりました。それから九年間、ほとんど学校に行けませんでした。

お母さんは、精神状態が良くなって学校に行けるようにと、棚園さんをいろんな病院に連れて行きましたが、良く

なりませんでした。それでもお母さんはあきらめませんでした。不登校の子どもへの支援活動をしている方を探しては家に来てもらいました。それも上手くいきませんでした。そういう人はみんな親切で、棚園さんのことをほめてくれました。しかし棚園さんは、いつもその後に「だから学校に行こうね」と言われそうで、それが重たいプレッシャーのように感じていたそうです。

棚園さんも心の中では〝学校に行かなきゃ〟と思っていました。でも、そう思うと、頭が痛くなって泣き叫んでしまいます。ある時、死にたくなって、墨汁を一本飲みました。また、体温計を割って中の水銀を飲もうともしました。

そういう状態ですから、親とも些細なことで喧嘩になってしまいます。そんな中でもお父さんは、不登校になった日から毎朝起こしてくれました。会社を休んで潮干狩りに

連れて行ってもくれました。お母さんも家にいると気が滅入るだろうからと、外に連れて行ったりしてくれました。家族三人外で過ごす時間はとても楽しかったそうです。

小学校の六年間が終わり、中学生になる時、棚園さんは〝心機一転して中学校には行こう〟と勉強を始めました。すると6年生の時の担任の先生が学校帰りに家に来てくれて、勉強を教えてくれました。真夜中まで勉強をして、お父さん、お母さんにもわからないところを教えてもらいました。そうして〝よし、これでいけるぞ〟と思って中学校に行ったのですが、制服を着ているクラスメイトが自分よりずいぶん立派で、勉強もできるように見えて、〝もう駄目だ〟と思えてきてしまいました。そしてまた不登校になってしまいました。

それでもお母さんはあきらめませんでした。相変わらず

いろんな人を家に呼びました。ある日〝引きこもりの子どもを絶対に家から出す〟という信念を持って活動している人に来てもらいました。その人は毎週一回家にきて、棚園さんに「君の好きなことをしよう」と言いました。好きなことは絵を描くことでした。漫画『ドラゴンボール』が大好きで、気づくといつも『ドラゴンボール』の絵を描いていました。するとその人が「正一くん、ドラゴンボールの作者の鳥山明さんに会いに行こう」と言いました。棚園さんは「そんな、恥ずかしいです。無理ですよ。それに（鳥山さんの）家はわかるんですか」と言いましたが、「調べればわかる。行こう、行こう」と言って、本当に家を見つけて、棚園さんの手をひいて連れて行ってくれました。そして鳥山明さんのところのインターホン越しに「この子は不登校なんですが、会ってもらえませんか？」と言いまし

た。当然ですが先方の返事は「お引き取りください」でした。しかし、ここで引き下がる人ではありませんでした。棚園さんを連れて何度も通いました。鳥山さんもその熱意にほだされて「会いましょう」となり、棚園さんは鳥山さんに会うことができました。

棚園さんは鳥山さんにどうしても聞きたいことがありました。それは「学校に行けなくても漫画家になれますか？」という質問でした。当時の棚園さんにとって何より深刻な問題でした。〝学校に行かないと漫画家になれず、この先まともに生きていくこともできない〟と思っていたからです。鳥山さんの答えは「学校に行かなくても漫画家にはなれると思うけど、学園ものとかの漫画を描く時に、行っていたら便利だよね」と、それだけでした。棚園さんは心がすごく楽になったそうです。その後に鳥山さんは「君の絵

を見たいから、描いたら持ってらっしゃい」と言ってくれました。それから、絵を描く度に鳥山さんのところに持って行きました。鳥山さんはそれを見てはアドバイスをくれました。また、映画の話やプラモデルの話などをしてくれました。学校の話題は出なかったそうです。

棚園さんは「鳥山先生と過ごす時間は、本当に至福の時間でした。あんなに楽しい時間はなかった」と言われています。でも、学校には行けませんでした。

しかしその後、専門学校卒業後、大学入学資格を取得して名古屋芸術大学に進学。現在は漫画家となり、美術教室と専門学校の講師もされています。またライフワークとして、不登校の子どもを助けるために全国を講演して回っておられます。お母さんのあきらめない心が棚園さんを今へ導いたように私には思えます。

不登校や引きこもりに困っている方は世の中に大勢おられます。十五年程息子さんの引きこもりのことで悩まれていた方のお話です。この方は八方手を尽くされましたが、なかなかうまくいきませんでした。最後に〝やはり徳を積むしかない。徳が満ちた時に息子は出てきてくれる〟と信じて写経をし、お題目を唱え続け、人のために尽くされました。そしてついに、息子さんは家から働きに出ることができました。今では結婚して子どもさんもできて、お父さんの会社を継がれています。

また別の方も、息子さんの長期間のひきこもりのことで悩まれていました。普通だったらあきらめてしまいそうな状況でも、お母さんはあきらめませんでした。私のところに相談に来られたその方に前述の方を紹介したところ、すぐに会いに行かれました。「その方と話をしていると、と

ても心が和む」と喜ばれ、話を聞いてもらいにちょくちょく会いに行かれるようになりました。また、「徳を積めば必ず良くなる」と言われたのを信じて、一生懸命徳積みをされました。最近になって、息子さんが早起きして働きに行くようになったと聞きました。今度は〝働きすぎて体が大丈夫か〟と心配するほどになったそうです。

『成功哲学』の著者ナポレオン・ヒルはその著書の中で次のように述べています。

「失敗の最大の原因は、一時的な敗北にあまりにも簡単にあきらめてしまうことである。多数の成功者が共通して、〝偉大な成功というものは人々が敗北に兜を脱いだ時点をほんの少しだけ過ぎたときにやってくる〟と言っている」

世の中の大多数の人々は、人生のいろいろな場面を振り返り、〝何故もう少し努力をしなかったのか。何故あんなに早くあきらめてしまったんだろうか〟と後悔をしたことがあると思います。

何よりあきらめないことが肝心です。あきらめずに努力を続ける。あきらめずに徳を積み続けるということです。「徳を積んだけど上手くいきません」とおっしゃる方がありますが、それはまだ徳分が足りていないということだと思います。信じてあきらめずに徳を積み続ければ必ず良くなります。

謹賀新年

日蓮宗 法音寺

至誠

今日一日
奉仕の心がけで働きましょう
今日一日
人を喜ばせるように働きましょう
今日一日
たゆまず続けてゆきましょう

令和四年元旦

講話日・毎月七日・十七日・二十七日

内局委員会
評議員会
◆
進師法縁法音会
檀信徒代表者会
全国信教師会

日蓮宗 大乗山 法音寺

講話日：毎月7日・17日・27日〔午後1時30分〕
〒466-0832　名古屋市昭和区駒方町3-3
TEL. 052-831-7135　FAX. 052-831-9801

支院名・主管者（担任）名	住　所・ＴＥＬ	毎月の講話日
高槻支院・岩田孝学（いわたこうがく）	大阪府高槻市天神町1-9-2 〒569-1117　☎〈072〉685-1003	第１日曜日 11日・21日
大阪支院・古山昭顕（ふるやましょうけん）	大阪府大阪市此花区西九条3-4-41 〒554-0012　☎〈06〉6465-5051	第２日曜日 23日
福井布教所・古山昭顕（ふるやましょうけん）	福井県あわら市春宮3-28-2 〒919-0632　☎〈0776〉73-5234	3/14・7/19 ・9/5
和泉支院・上田智淳（うえだちじゅん）	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404 〒598-0091　☎〈072〉466-3112	第１日曜日 14日・22日
神戸支院・田中常行（たなかじょうぎょう）	兵庫県神戸市兵庫区五宮19-17 〒652-0007　☎〈078〉360-4884	第２土曜日 21日
淡路支院・田中常行（たなかじょうぎょう）	兵庫県南あわじ市神代国衙910 〒656-0455　☎〈0799〉42-0175	5・15・25日
岡山支院・梅田浄顕（うめだじょうけん）	岡山県岡山市南区若葉町1-16 〒702-8047　☎〈086〉262-0818	第１日曜日 7日・23日
高知布教所・山本雅子（やまもとまさこ）	高知県高知市上町5-5-39 〒780-0901　☎〈088〉823-1983	12日
福山支院・宮崎良祐（みやざきりょうゆう）	広島県福山市西町3-19-5 〒720-0067　☎〈084〉921-3078	１日 第３日曜日
三原支院・森野智広（もりのちこう）	広島県三原市皆実2-9-22 〒723-0052　☎〈0848〉62-5087	第２土曜日 第４日曜日
安芸津支院・大本信行（おおもとしんぎょう）	広島県東広島市安芸津町三津3765-3 〒739-2402　☎〈0846〉45-4012	第１土曜日 第４日曜日
坂支院・三宅善祐（みやけぜんゆう）	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12 〒731-4313　☎〈082〉885-1064	第１、又は 第２日曜日
福岡支院・大庭圓昭（おおばえんしょう）	福岡県福岡市早良区城西2-11-37 〒814-0003　☎〈092〉821-7975	第１日曜日 第３日曜日 15日
壱岐布教所・三好敏博（みよしとしひろ）	長崎県壱岐市石田町池田東触1112 〒811-5221　☎〈0920〉44-5445	13日・23日
筑後布教所・蒲池厚（かまちあつし）	福岡県筑後市大字西牟田5954-1 〒833-0053　☎〈0942〉53-7273	第２日曜日 第４日曜日
天草布教所・大庭持念（おおばじねん）	熊本県上天草市大矢野町維和1502-1 〒869-3604　☎〈0964〉58-0742	１日
田川支院・手嶋敬徳（てしまけいとく）	福岡県田川市春日町7-30 〒826-0026　☎〈0947〉42-1819	第２日曜日 第４日曜日
名古屋地区・前原祐学（まえはらゆうがく）	愛知県名古屋市昭和区駒方町3-3 〒466-0832　☎〈052〉831-7135	7・17・27日
瀬戸布教所・髙原吉一（たかはらよしかず）	愛知県瀬戸市東本町2-20 〒489-0816　☎〈0561〉85-6860	9・19・29日
亀岡布教所・田中節子　田中悠子 山藤明江　嶋崎婦美子	京都府亀岡市篠町篠牧田73-1 〒621-0826　☎〈0771〉25-7807	第２月曜日 第４日曜日

※講話日は行事によって変更になる場合があります。

謹賀新年

支院名・主管者（担任）名	住　所・ＴＥＬ	毎月の講話日
大乗山 泰明寺・鈴木修徳（すずき しゅうとく）	愛知県名古屋市中村区名駅2-37-3 〒450-0002　☎〈052〉581-2069	5日・20日
開基堂・髙浪慈成（たかなみ じせい）	愛知県江南市寄木町天道18 〒483-8184　☎〈0587〉53-5436	10日
東京支院・猪原善昭（いのはら ぜんしょう）	東京都練馬区谷原2-6-37 〒177-0032　☎〈03〉3904-1251	第１日曜日 15日 第４土曜日
山形布教所・小山幸子（こやま ゆきこ）	山形県山形市長町2-4-6 〒990-0811　☎〈023〉681-0770	10日
静岡支院・新庄義真（しんじょう ぎしん）	静岡県磐田市城之崎4-7-3 〒438-0084　☎〈0538〉32-6625	2・12・22日
豊川支院・三宅善祐（みやけ ぜんゆう）	愛知県豊川市中野川町1-26-3 〒442-0885　☎〈0533〉86-4704	4日・20日
安城支院・島田知教（しまだ ちきょう）	愛知県安城市新田町小山31-25 〒446-0061　☎〈0566〉76-2504	第１、又は、 第２日曜日 18日・28日
明川支院・毛利行徳（もうり ぎょうとく）	愛知県豊田市明川町堂ノ脇1-2 〒444-2601　ご連絡は本山寺務局へ	11日 第４土曜日
佐屋支院・村上善立（むらかみ ぜんりゅう）	愛知県愛西市大井町浦田面296 〒496-0921　☎〈0567〉32-1825	4日 第２日曜日 24日
一宮支院・香村浄音（こうむら じょうおん）	愛知県一宮市大江1-7-4 〒491-0851　☎〈0586〉72-7208	5・15・25日
西春支院・渡辺英覚（わたなべ えいがく）	愛知県北名古屋市九之坪東ノ川20 〒481-0041　☎〈0568〉22-5813	2・12・22日
岐阜支院・前原順徳（まえはら じゅんとく）	岐阜県岐阜市切通7-15-22 〒500-8237　☎〈058〉245-2939	4・14・24日
笠松布教所・岩田正揮（いわた まさき）	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23 〒501-6042　☎〈058〉388-2740	12日
大垣支院・香村浄音（こうむら じょうおん）	岐阜県大垣市宝和町5 〒503-0972　☎〈0584〉78-4854	1・11・21日
関支院・吉橋顕良（よしはし けんりょう）	岐阜県関市西福野町2-15-11 〒501-3244　☎〈0575〉22-0776	3・13・23日
平賀支院・後藤善晃（ごとう ぜんこう）	岐阜県関市市平賀213-2 〒501-3822　☎〈0575〉23-3771	5・15・25日
郡上八幡支院・渡辺義彰（わたなべ ぎしょう）	岐阜県郡上市八幡町小野721-3 〒501-4221　☎〈0575〉65-3933	8日・22日
四日市支院・祖父江瑞法（そぶえ ずいほう）	三重県四日市市赤堀2-4-7 〒510-0826　☎〈059〉352-3633	3・13・22日
上野支院・橋本道念（はしもと どうねん）	三重県伊賀市上野向島町3475 〒518-0875　☎〈0595〉21-0127	1・11・21日
京都支院・安藤順法（あんどう じゅんぽう）	京都府京都市上京区北横町360 〒602-0818　☎〈075〉231-3437	1・9・20日

謹んで新春の お慶びを申し上げます

徳を昭（あき）らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人 昭 徳 会

■児童養護施設
駒方寮
名古屋養育院
名古屋若松寮

■障がい児入所施設
小原学園

■障がい者支援施設
小原寮
泰山寮

■特別養護老人ホーム
安立荘
高浜安立荘
小原安立

■障がい福祉サービス事業
授産所高浜安立

■軽費老人ホーム（特定施設入居者生活介護事業）
ケアハウス高浜安立
ケアハウス湯山安立

■軽費老人ホーム
ケアハウス大阪安立

■養護老人ホーム
養護老人ホーム高浜安立

■自立援助ホーム
慈泉寮
かりん

■保育所
駒方保育園
光徳保育園
天王保育園

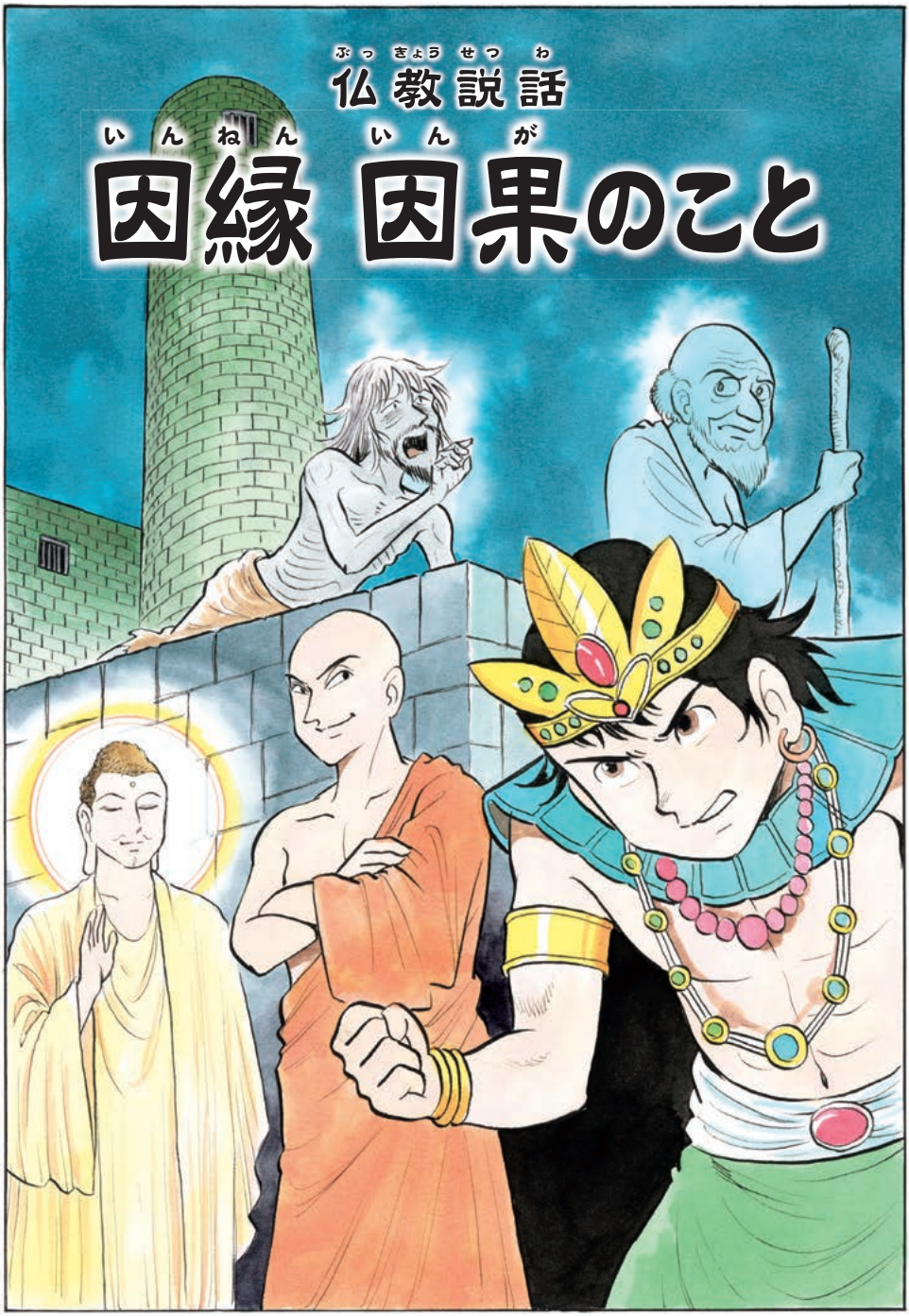
法人本部　〒466-0832 愛知県名古屋市昭和区駒方町4-10　TEL（052）831-5171
https://www.syoutokukai.or.jp

我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

学校法人 日本福祉大学

■日本福祉大学大学院　■日本福祉大学
■日本福祉大学中央福祉専門学校　■日本福祉大学付属高等学校

法人本部　〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6　TEL（0569）87-2211
https://www.n-fukushi.ac.jp



Juntakenaka

マガダ国はビンビサーラ王が国を治めていました

国は栄え何の不足もなかったのですが唯一憂うことがありました

ビンビサーラ王とイダイケ王妃の間には王位を譲るべき王子がいなかったのです

このまま私が老いていけば王位が空位になってしまう…

…

王さま　街でも有名な占い師を連れてまいりました

どうだ私達に子はできるか？どうだ!?

ヴィプラ山に住む仙人が死に　太子に生まれ変わるであろう

で…仙人はいついつ死ぬんだ

三年後です

三年後!?
三年も待てない
今すぐヴィプラ山の仙人を探し出し殺してしまえ
今すぐだ
悪いが王さまのためだ
こんなことをして…
この報いを必ず受けることになりますぞ
やがてイダイケ王妃は懐妊しました
元気な王子を産むのだぞ
王さま! そのお顔
え?
剣難の相が現れておる
今 王妃の懐妊のお子はやがて王さまを害する子となるでしょう

なに…
私がわが子から
害されるだと…
そんなことは
許さぬ！

そうだ
産まれると同時に
その子を殺して
しまおう

王さま
王さま

タタタタ！

お願いです
やめてください

ヴィプラ山の仙人を
殺し　今度はその
魂を宿している子を
殺そうというのですか

もし王さまに慈悲の
心があるなら
思いとどまってください

王さま　私の願いを
きいてください

出産の際
三尺下に刃を置き
この子がその刃に刺さり
命を落としたなら
手を下さずとも
この子の命は終わります
もし刃に刺さらず寿命が
あるなら　どうか命を
助けてやってください

誕生した子は
刃で指に怪我を負いましたが
幸いにも命を落とさず
生きることができたのです

オギャー
オギャー

王さまは　その子を
アジャセと名づけ
アジャセ太子をかわいがり
慈しみました

その頃　お釈迦さまに
反逆し　教団の
分裂を企てていた
ダイバダッタという
男がいました

ダイバダッタは
アジャセ太子をそそのかしました

アジャセ太子
あなたの指の傷は
なぜ負ったか
知らないでしょう

あなたの父
ビンビサーラ王は
あなたが産まれる時
殺そうとしたのですよ

アジャセ太子よ
父である王を殺し
あなたがこの国の
国王になって
思いのままにこの国を
治めたらどうです？

父上 あなたは 私の父でありながら この私を殺そうと したのですね
!!
そんな人は 父でも国王でも ない！
今からこの玉座には 私が座る どきなさい
何を言う アジャセ
早くこの男を 投獄するのだ
食べもの いや水も 与えるでない
ビンビサーラ王は石の牢獄に 子 アジャセ太子によって 監禁されたのです
王妃だ 牢を開け なさい
何をする 私は国王だ 放せ
おい何か 甘い香りしないか？
王妃が身体に ハチミツを塗って 王に与えてるんだよ

なに!?

王妃も別棟の牢に監禁しろ

アジャセ やめて… お願い

結局 ビンビサーラ王は 牢内で餓死しました

これが 因縁 因果の 恐ろしさです

過去に作った種まきの報いはいつか受けねばなりません

この世の命を終えてしまえば苦しみも消えてしまうだろうと皆考えるようですが 苦しみは消えるどころか 未来に一層増すことになるのです

ひどい目にあうのも自分の悪因の結果です

相手だけが悪いと思いますが本当は自分の罪障のために苦しみを受けさせられる相手の方がもっともっと気の毒なのです

この私を殺そうとした　父と母だ
一生　牢獄で
苦しむがいい

自分がひどい仕打ちを受けたと相手を恨むのは間違いです

ウォオォー
うっ　うう…
どうされましたアジャセ王！

ビンビサーラ王が殺害した仙人の生まれ変わりのアジャセ王は重い病に苦しんだのです

うう～
苦しい…
た　助けてくれ～

アジャセ様の病を治せるのはあの方しかいない

お釈迦さまの慈悲の光がアジャセの全身を照らした時

病は癒えていきました

あなたに会わなければ計り知れない長い間地獄に堕ちて　限りない苦しみを受けねばならなかった…

そしてアジャセは仏法に深く帰依したのです

悩み苦しみに出会った時悪因を知ってそれを消滅しさらに相手の悪因をも消滅してあげなくてはいけません

おわり

始祖　廣宣院殿安立大法尼　第百遠忌
御開山　泰山院日進上人　第七十遠忌
御報恩

五十萬巻　御報恩納経

妙法蓮華経

久遠偈

大乗山　法音寺

書写経典	久遠偈（如来寿量品第十六）
納経期間	令和4年1月1日より10年間
納経供養金	1冊2,000円

写経のまんが動画がご覧になれます

※納経帳のお求めは本山事務所受付または所属まで

写経の作法

写経用紙は法音寺・各支院・布教所でお求めいただけます。筆・硯・墨をご用意ください。（※）

一、お仏壇に香・華・灯をお供えし、場所を清めます。

二、お数珠を手にかけ、合掌し、呼吸を整え、精神統一します。

三、次の偈文を読誦し、お題目を十遍唱えます。

「水はこれ大慈悲、潤いの智水。墨はまた楞厳禅定の石墨なり。定の墨、慧の水和合して実相法身の文字を書写す。この文字は三世諸仏甚深の秘蔵、三身如来真実の正体にして自行化他の功徳悉く皆具足す。この故に我今この経を書写し奉る。この功徳善根によって法界の衆生と共に無始已来の三業、六根一切の罪障を皆悉く消滅し、仏を見奉り、法を聞いて菩提を證ぜんことを」

四、墨を静かにゆっくり磨ります。（※）

五、お数珠を置き、筆を執り、書写行に入ります。一字一字の文字が仏さまです。心を込めて書写しましょう。

六、願文を書き終えたら、お数珠を手に、合掌して、三宝（仏・法・僧）の恩、国土の恩、父母の恩、衆生の恩に感謝し、次の回向文を唱えます。

「願わくは此の功徳を以て普く一切に及ぼし、我等と衆生と皆共に仏道を成ぜん」

七、合掌してお題目を三唱し、静かに礼拝します。

※現在、法音寺で行っている御報恩納経につきましては、筆に限らずサインペンやボールペンなどを使用していただいても構いません。

知っているようで知らなかった!?

法音寺のこと㉕

三好学園

多くの孤児を受け入れ育てた修学は「どんな困難な状況でも、明るい心を失ってはならない」「物質的に恵まれなくても、心の持ちようで希望の光は見えてくる」という信念に基づいて職員の指導及び施設の運営にあたりました。その理念を継承した宗音（日達上人）は、先頭に立っ

三好学園 開設の日

て昭徳会福祉の充実・発展をめざし、昭和40年4月、知的障がい児施設・八事少年寮と光明寮を統合し、愛知県みよし市に、知的障がい児施設・三好学園を開設させました。宗音にとって、社会福祉法人昭徳会・理事長初めての事業でした。

八事少年寮と光明寮（※）の三好町への合併・移転は同年3月28日に完了し、4月1日より「愛知県立三好学園」（当時は国庫補助を受けるためには設置主体を県にする必要がありました）としてスタートしました。移転当日は、昭徳会職

三好学園第一回卒園式の日

員のほかに法音寺檀信徒・青年会員も多数奉仕したと記録にあります。児童達も住み慣れた寮舎を去るには寂しさを感じつつも、新園舎到着後、初めて見る建物の立派さと大きさに戸惑いつつ、それぞれの部屋に落ち着くと嬉々として園内を走り回ったといいます。

三好学園十周年を迎えた昭和50年、宗音は当時を次のように振り返りました。

「十年ひと昔といいますが、打越の丘にポツンと建物ができたことが昨日のように思い出されます。三好学園は突然できたものではなく、名古屋の八事少年寮と光明寮の歴史を継承するものです。両施設の定員増加や建物老朽化の結果、子ども達に適した新しい良い環境と居住性のより快適な建物を求めて、前施設の土地を売却し、現在地に移ったのです。この移転については、県当局、当時の町長、町会議員、また地元の方々のご協力を得たもので、それは現在まで引き続いています。

当時は、社会福祉の意味さえおぼろげで、ましてや知的障がい児の何たるかの理

解もほとんどない時期で、よくご協力をいただけたものと感謝しております。

私は、この事業にたずさわることによって時として、人間とは何か、人間は何のために生きているのかを教えられました。明治以来、子どもを育て、教育することは、社会有用の人材たらしめるためとされてきましたが、社会福祉の分野ではこれは通用しません。人を育てることは、もっと深いところにその意味があるようです。

人間は生きている限り、誰でも自分を、言葉で、行動で、動作で表現し、表わそうとします。それを受け止め、よく聞き、正しく伸ばしていくことこそが大切であります。お互いが実利のつながりでなく、そこに命のつながり、無限の魂のつながりを見たいのであります」

※八事少年寮・光明寮＝知能指数70以下で両親のない児童、片親のみの児童、生活苦により子どもの面倒が見られないなどの理由により親と一緒に生活できない児童を養護・指導する施設。（当時の資料より）

参考文献

『大乗山法音寺三徳開教百年史(4)』

お寺の本棚

『御開山上人御遺稿集』

心の建て直し

昭和24年の新春を迎えまして、私どもは何を考えねばならぬでしょうか。第一に大切なことは、やっぱり日本の再建です。それには心を建て直し、整えていかねばならぬと思います。そうしてずんずん善い行いをして徳を重ねていかねばならぬのであります。

昔、お釈迦さまはおもしろい譬えを説いておられます。

「お客を迎える時、牛の乳をご馳走しようと思って搾ったけれども量が足りない。そこでもう少したくさんにしてからお客を招待しようと考え、翌日も乳を搾って前の乳と一緒にした。しかし、まだ足りない。その翌日も、またその翌日もそういうようにして、七日も八日も搾って溜めて置いて、充分の量になったので出してみたらスッカリ腐っていた」

こういうことになってはいけません。お客を招待しようと思ったならば、その日か、あるいはその前日に牛の乳を搾って、もし足りなければ他から取り寄せるなり、何とか工夫すべきであります。少しずつ搾って、溜まってから人に飲ませようと思うと、溜まった時には腐ってしまっているのであります。それと同じことで、〝自分も人に施したいが、もう少し溜まってから〟と、ついに施しをせずして終

わってしまうことが多いのであります。

教えを人に説くにしても、スッカリ覚ってから人に説こうと思っていると、覚りきらないうちに死んでしまうかもしれません。だからお釈迦さまは、〝むやみに溜めておかずに、少しでも溜まったらすぐ分けてあげなさい〟というように教えておられるのであります。だから、自分で覚ることに努めるとともに、少しでもわかったらそのわかったことを、力に応じてほかの人にも説いて、その喜びを分けてあげるように心掛けねばなりません。そうすると、〝自分がもっと充分に修行しなければならぬ〟ということを痛感するようになります。人に教えを説くとか、道を説くことを多少なりともしてみると、自分の足りないことがわかってくるのです。そして、また修行し、また反省し、善いことを行うとなれば、段々その人の一挙一動がその周囲に感化を与えるようになるのであります。そうして仏さまのように口に説くことも、手の動かし方や足の踏み方までも一切、申し分がなくなってくるのであります。その境界を「覚行円満の境界」というのであります。自ら覚り、他を覚らしめ、覚行円満となる、これが即ち仏の境界であります。

お互いに日常の行を仏さまの教えに則って修行し、早く心の建て直しをいたしましょう。正しく心の建て直しができますれば同時に日本の再建も必ず完成いたします。この心構えを持って信仰に精進いたしましょう。

この本をもっと詳しく読んでみたい方は、法音寺本山、または各支院・布教所までお問い合わせください。

SDGsと法音寺三徳

SDGs（エスディージーズ）という言葉を、新聞やテレビでよく目にします。

SDGsとは、より良い未来を願い、人種や国家・地域を越えて、誰一人として取り残すことのない平和な世界を築き上げようという決意のもと、２０１５年に国連で採択された「持続可能な開発目標」です。そこには２０３０年までの達成をめざし、17の目標（ゴール）が設定されています。これは裏を返せば、人間がこのままの生き方をしていたら未来は「持続不可能」になることを意味するのではないでしょうか。それはさておき、まずは17のゴールを見てみましょう。

1 貧困をなくそう。
2 飢餓をゼロに。
3 すべての人に健康と福祉を。
4 質の高い教育をみんなに。
5 ジェンダー平等を実現しよう。
6 安全な水とトイレを世界中に。
7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに。
8 働きがいも、経済成長も。
9 産業と技術革新の基盤をつくろう。
10 人や国の不平等をなくそう。
11 住み続けられるまちづくりを。
12 つくる責任、つかう責任。
13 気候変動に具体的な対策を。
14 海の豊かさを守ろう。
15 陸の豊かさも守ろう。
16 平和と公正をすべての人に。
17 パートナーシップで目標を達成しよう。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

目標とされているこのゴールの背景をかいつまんで見ることにします。

●現代人は地球1・6個分の自然資源を使って生活していると言います。特に先進国の消費量が多く、世界中の人が日本人と同じ生活をするには、地球が2・8個必要になるそうです。

●子どもを含め、20億人が安全に管理された飲み水を使用できていなくて、36億人が、安全に管理されたトイレを使用できていないといいます。

●現在、電力なしで暮らす人が、10億人近くいるといいます。

●世界中で、推定年間3億人の子どもが暴力や搾取・虐待などにさらされているといいます。

（日本の厚生労働省の統計によると、全国の児童相談所が2020年度に児童虐待として対応した件数が20万5千29件に上がったそうです。）『自分で身を守ることができない子ども達が苦しみ、死んでいく社会に未来はない』と警鐘を鳴らす識者もいますが、そうならないよう、願うばかりです。

●一日わずか1・9ドル（約200円）未満で暮らす子ども達が3億5千600万人にものぼるといいます。

●世界中で、小学校に通えていない子が5千900万人、中学校に通えていない子が6千200万人いるといいます。

今こうしている間にも、貧困や不平等、格差などさまざまな問題が覆いかぶさり、苦しんでいる人がいっぱいいます。加えて、すべての人に平等に「気

候変動」が襲いかかり、台風・水害・地震・山火事などの自然災害に苦しめられています。

これらの問題を根本的に解決し、この地球を「持続可能なより良い世界」に変えることをめざそうというのですが、見直すまでもなく、人間も地球上に住む生きものの一種です。他のすべての生きものや植物と共存し、すべてが永遠に楽しく、幸せに暮らす義務と責任があると思いますし、それができるのは人間だけです。この地球上、さまざまな自然の中でいろいろな生きものが生存しています。いろいろな木が生え、花が咲き、実がなり、そこに人間も含めたさまざまな動物・鳥類・昆虫等々が集まり、生活しています。また、地球上には今、約78億人の人間が共存しています。ほとんど考えることもないかもしれませんが、こうしたこと自体、とても不思議で、奇跡のように思いませんか？なのに多くの人々は、そんなこと〝あたりまえ〟と考え、〝ありがたい〟と思っていないのではないでしょうか。

地球は、宇宙にある無数の星の中の、たった一つの星です。きれいな水があり、澄んだ空気があり、豊かな大地に恵まれ、太陽が優しく、温かく見守り、光りと熱を降り注いでくれています。もし、この地球があと少し太陽に近かったら、あるいは、遠かったら、おそらく空気も水もなく、現在のあらゆる生命も生かされていないでしょう。全く異なる生物世界になっているかもしれませんが、私どもが今生かされているこの地球を元通りの、きれいで美しい地球に戻そうと、世界中の人々が立ち上がったのです。

法華経・法音寺三徳をいただく私どもとしては、今いったい何を為すべきでしょうか。何がこの私にできるのでしょうか。

〝そんな大それたこと、この私なんかにできるはず

がない〟と思われる前に、師のみ教えに立ち返ってみたいと思うのです。その時、この世界は『三災を離れ、四劫を出でたる常住の浄土』（日蓮聖人・観心本尊鈔）と確信できるのです。

杉山辰子先生・安立大法尼の誓願「衆生無辺誓願度」は〝この世界のすべての人を救います〟という誓いであります。いつも仏前でお唱えしますが、とてもそんな大それたことができるとは思えません。〝そんなウソを仏さまに言っていいのか〟と思いますが、この誓願の第一歩は〝自分の目の前にいる人をまず喜ばせる〟ということです。一度にやろうと思ったらできませんが、一番身近な人を力づけ、喜ばせるところから始めるのです。それならできないことはありません。

顕修院日達上人〈大白牛車・8より〉

《妙法蓮華経・久遠偈》書写行にあたり

今の時代、地球上すべての国々、人々が大難に遭遇しています。山火事、大地震、風水害などの大災害が世界各所で頻発しています。そして新型コロナ禍です。このまま人々が「貪・瞋・痴・慢・疑」を繰り返すならば、災害を回避することはできません。

始祖安立大法尼は「仏教を以て世を感化し救済せん」と仰いました。法音寺に縁を結ぶ者は、今こそ本師・釈迦牟尼世尊の御心、「我が此の土を安穏」にすべく、法華経・三徳を宣布し、世の人々を感化救済しなければなりません。

妙法蓮華経・久遠偈は唯一絶対の「破地獄の経」です。真心を込めて日々書写し、世の人々に伝え、世を浄化し、災害の因を消滅させ、人々を苦しみから救済しましょう。それが、法音寺三徳・菩薩行を志す者の一大責務です。

山首上人〈御法推進全国大会資料より〉（H・I）

久遠偈を学ぶ①

～永遠不滅の仏の世界を心の中に～

衆生劫尽きて　大火に焼かるると見る時も　我が此の土は安穏にして　天人常に充満せり
園林諸の堂閣　種々の宝をもって荘厳し　宝樹華果多くして　衆生の遊楽する所なり
諸天天鼓を撃って　常に諸の伎楽を作し　曼陀羅華を雨らして　仏及び大衆に散ず

「衆生劫尽きて」の「劫」とは「四劫＝成・住・壊・空」のことであります。誕生があり、そして成長し、壊れ、やがて消えていく人間の一生と同じように、私どもの住む地球も、いずれなくなる時がくるのですが、仏さまの世界は滅びることのないすばらしい世界である、ということです。

地球がなくなるというようなことは、私どもが生きている間にはまずないでしょう。しかし現実的には、もっともっと怖い話があるのです。と申しますのは、西暦元年には地球上の人口は約二百五十万人位でした。それが

段々増えてまいりまして、十九世紀には十億人、二十世紀には二十億人、そして現在は七十八億人と言われています。

別に人間が増えたところで構わないのですが、しかしそれだけの人間に必要な食料が地球上にはありません。現在でもアフリカやインドなどでは、三分の一以上の人が飢えに苦しんでいるといいます。

たとえ地球がなくならないにしても、食料がなくなれば人間は生きていくことができません。そういうことを考えますと、そんなに先の話ではなく、もっと身近に大変な問題が控えていることがわかります。

このように、私どもの今住む世界は理屈の世界・知恵の世界、あるいは欲の世界とも言えるのですが、いろいろ移り変わっていきます。しかし、仏さまの世界だけは絶対に変わることのない、美しい極楽のような世界であると説かれるのです。

目の前のものはいろいろ違っておりま

しても、こうした仏さまの世界を心に描くと申しましょうか、思い浮かべてみることも必要なことだと思います。仏さまの世界は永遠不滅なものであり、大変美しい世界であるという、そうした確信を持つことも、信仰していく上には大切なことであります。

ここに説かれているのは、すばらしい世界でありますが、今、たとえ自分の立場がどうであろうと、仏さまの世界を心に描くことによって、どこか心が鎮められ、安心というものが出てくるのであろうと思います。

確かにこの世界は、うれしいこともあれば、またすぐに悲しいこともやってまいります。そして、苦しいことや困ったことというのは、

それ一つで終わることなく次から次へと重なって起るものです。

苦しみとか悩みは、全人類的なことを考えても、また自分一人だけの個人的なことを考えても、数え上げたらきりがありません。考えれば考える程、心配の種は尽きないのです。

しかし、仏さまの世界はいつも春のように穏やかで、悩みのない永遠不滅の世界であると説かれるのは、〝そういう極楽のような世界を心に描くことにより心を落ち着けなさい〟ということだと思います。イライラしたり、心が落ち着かない時には、自分なりの仏さまの世界を心に描き、まず心を落ち着けることが大切です。

うれしい時・悲しい時・怒りの時・苦しみの時にこそ人間の本当の性格が表れます。いずれにしましても、修養と申しましょうか、信仰がありませんと、その場その場において自分を見失い、溺れてしまいがちです。そうした場合にも自分を失わないようにするには、やはり信仰をしっかり持っておりませんといけないと思います。どこか心に落ち着きを持つことが大切です。そういたしますと、何があろうとそれに負けたり、溺れてしまうようなことはなくなると思います。

顕修院日達上人御法話『大白牛車（九）』より

福祉のひろば

SINCE 1912
SHOTOKUKAI

NIHON FUKUSHI UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION

幸せのお手伝い

～上手くいく支援ばかりではないことを教えてくれた～

自閉症のSさんとの出会い

働き始めて二年目、重度の自閉症のSさんの担当支援者となりました。それまでの一年間、重度の自閉症でこだわりが強いSさんに対し、上手く支援できていたわけではなかったため、〝まだ二年目の私に務まるのだろうか〟と不安だらけで、何をすればいいかわからず、周りの先輩に助けてもらう場面が多くありました。今振り返るとSさんの気持ちを考えずに対応してしまった場面が多くあった、と反省しています。

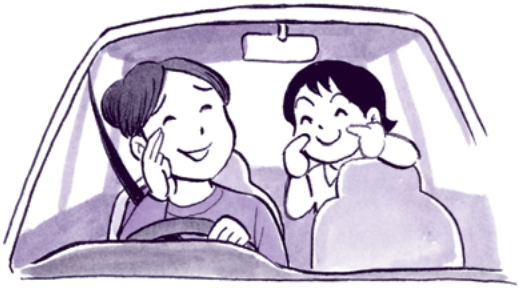
担当となって二年目、自傷行為のあったSさんは目の近くを叩いてしまうことがあり、目の異常がないか確認するため、眼科を受診しました。視力検査の結果、Sさんの右目はほとんど見えていない状態でした。帰りの車内、私は申し訳ない気持ちと辛い気持ちから運転をしながら涙が出てしまいました。Sさんは私の様子に気づき、「古田さん、みて。○○ちゃん（Sさんの名前）、にこにこ」と笑顔をみせました。そのセリフはいつも本人が言っている言葉であり、怒ってしまうSさんに気持ちを切り替え、落ち着いてもらうために

支援者がSさんに日頃からかけていた言葉でした。私を気遣ってくれたその言葉が今でも頭に残っています。

重度の自閉症であるSさんの担当を任せてもらえたことは、支援者としてのスキルアップにつながりました。上手くいく支援ばかりではないことを教えてくれたSさん。その支援方法には沢山悩みましたが、その分Sさんを沢山知ることができ、一緒に多くの時間を過ごせ、沢山の思い出ができました。この仕事のやりがいを教えてくれたSさん。〝誰かの役に立ちたいという思いで働き始めた私が利用者さんに助けられ、支えてもらっている〟と気づかせてくれました。ありがとうSさん。

私達は利用者さん達の一番の理解者となり、代弁者とならなければいけません。障がいの程度もさまざまであり、すべての利用者さんにとって満足のいく生活環境を整えることはむずかしいですが、〝学園の生活は楽しかった〟と思ってもらえるように、日々の支援にあたっていきたいです。

障がい児入所施設　小原学園　古田　真理



第14回 福祉実践発表会 日本福祉大学で開催

写真提供・昭徳会

社会福祉法人 昭 徳 会

～障がい児入所施設 小原学園が最優秀賞 受賞～

令和3年11月20日、日本福祉大学東海キャンパス（東海市）にて『第14回福祉実践発表会』が開催されました。新型コロナウイルス感染予防のため、会場参加とオンライン参加のハイブリッド形式で行ったところ、日本福祉大学の学生も多く参加し、総勢約150名の参加となりました。

昨年度から「高齢」「障がい」「児童・保育」と分野ごとの発表とし、今回は障がい分野4施設が発表を行いました。また、学校法人日本福祉大学と社会福祉法人昭徳会、そして両者の母体である宗教法人法音寺、この三法人が連携して行う「三法人連携」の取り組みについて、日本福祉大学と昭徳会の担当者による発表も行われました。

鈴木修学初代理事長が、「社会事業の現場で働く指導者養成のための大学をつくる」と、強い思いから創

立された日本福祉大学で、昭徳会の職員が利用者さんの「幸福（しあわせ）」のための日々の取り組みを発表したことで、三法人の連携がさらに強化されたと思います。

4施設の発表を終えた後、全参加者に、最も印象に残った発表を選んでいただきました。いずれもすばらしい発表で、基本理念「幸福（しあわせ）」の実現に直結するものばかりでした。見事、最優秀賞に選ばれたのは障がい児入所施設・小原学園でした。発表テーマは「笑顔あふれるみんなの家～安心して過ごせる場所をめざして～」です。発表内容を簡単に紹介いたします。

小原学園では、18歳を迎え、高等部を卒業した利用者さんは施設を退園し、新たな場所で生活を始めます。退園に向けて進路先での実習等を経験した利用者さんは不安を示すことが多くなります。そのため、社会に出ても困らないよう、生活に必要なスキルを身につけられる支援をすると同時に、利用者さん一人ひとりの拠り所になるようなさまざまな取り組みを行いました。まず担当職員を窓口にして利用者さんの想いを聴く時間を設け、心理的支援が必要な利用者さんには心理士による個別セラピーを実施したこと。心理士が支援のアドバイスを行い、その人に合った進路先に進めるよう、担当職員が中心となって利用者さんの意見を児童相談所や学校等関係機関に伝えたこと。また施設行事の際やお盆、年末年始を中心に利用者さんを受け入れる里帰りを実施したことなどが紹介されました。

利用者さん一人ひとりに寄り添いながら支援することで、小原学園が利用者さんにとって、困った時に頼れる場所であり、帰ってくることができる場所となったという発表でした。

来年度は保育分野と児童分野の発表です。どのような取り組みについて発表されるのか、とても楽しみです。

法人本部事務局　事務員　古田　優佳

「アート×ふくし」～地域共生社会の実現に向けて～

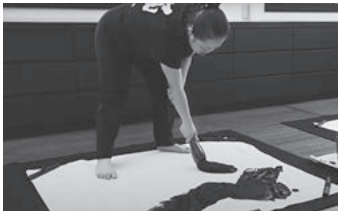
第33回日本福祉大学社会福祉セミナー開催

11月27日（土）福岡市電気ビルみらいホールで「日本福祉大学社会福祉セミナーin福岡」が開催されました。大学・同窓会・後援会の三者で開催する本セミナーは1987年の第1回開催（広島市）から今回で33回目。毎回開催地の地域同窓会を中心に実行委員会が組織され、福祉を軸とした幅広いテーマを扱うとともに、地域独自の特色も加味されたセミナーとして回を重ねています。

今回は福岡県地域同窓会が中心となり、福祉のアート活動をとおして、地域や社会との関係を考えるセミナーにしたいと、『「アート×ふくし」～地域共生社会の実現に向けて～』をテーマに設定。新型コロナ感染拡大防止の観点から会場と大学公式YouTubeチャンネルでの同時配信（字幕対応チャンネルも別途配信）という初のハイブリット形式での開催となり、会場受講者約80名、全国各地でのライブ配信聴講者約150名の計230名にご参加いただきました。

セミナーは、東京2020オリンピック・パラリンピック公式アートポスターのアーティストの一人でもある書家の金澤翔子さん（本学客員准教授）による揮毫の様子を撮影した動画からスタート。「共生」の二文字を力強く書き上げ、メッセージをいただきました。

前半は児玉学長による「すべての人のしあわせに貢献する〝ふくしの総合大学〟の使命」と題した講演、佐賀在住の島田洋七氏によるトークショー「がばいばあちゃんが教えてくれたこと」が行われました。



金澤翔子さんの揮毫動画より

後半のメイン企画は「アートから生まれる素敵な関係　福祉×地域×社会」と題し、障害者福祉サービス事業所PICFA（ピクファ）施設長原田啓之氏（本学社会福祉学部2000年卒業）の活動を中心にして、パネルディスカッションが行われました。PICFAは医療法人の病院の中にある就労継続支援B型の障害者施設（佐賀県基山町）。2017年7月、PICTURE（絵画）とWELFARE（福祉）の文字を組み合わせ、「福祉とアート両方を追い求める」施設として開所。障害のある方のアート作品の創作を「仕事」

として位置づけ、絵画制作・販売、デザイン・イラストの提供、壁画、ライブペイント等を行い、官公庁はもとより、多くの企業ともタイアップして商品やグッズの制作、販売を行い、その活動は全国でも注目されています。当日、会場の舞台にはＰＩＣＦＡが地元で行った「大きな絵を描こう」イベントで、二日間で延べ百名が色を重ねた巨大アルミパネルの作品が飾られ、ロビーでは「ＦＵＫＵＳＨＩアート展」も開催されました。

原田さんからは、障害のある兄弟との生活から福祉を学びたいと本学に進学した経緯や、作業所での活動を見て〝障害があっても好きなことを仕事にして、その仕事に少しでも付加価値が加わるように変えたい〟と思い、施設で障害者アート活動に関わるようになった経緯などエピソードを交えてお話しいただきました。広告代理店の取締役竹下氏からは「最初に見た時にカッコいい作品と純粋に感動して、たどっていったら原田さんのところだった」。長崎県を中心に事業展開しているグループ会社社長の樋口さんからは「創業70周年の会社のロゴマークをＰＩＣＦＡに依頼したが、最初原田さんから断られた。ありきたりのデザインではない作品を見たかった」とそれぞれが原田さんとの出会いから話が始まり、ＰＩＣＦＡのメンバーと作品への熱い思いが語られました。

PICFAの作品を前にパネルディスカッションの様子

原田さんは「近年、障害者アートの作品ばかりが話題になって当事者達に光があたっていない感じがする。作品が創作される過程の関係性を大事にしてほしい」と問題点を指摘。失敗から学ぶことや自己決定できることを重視した支援や、活動を通じて地域の方々との関係性を作ることで地域資産になることをめざしていると語られました。そしてコーディネーターの野尻先生（本学社会福祉学部長）が「福祉の現場で私達が〝しかたないよね〟とあきらめがちになる姿勢を反省し、素敵な関係のなかで育まれている新しい取り組みに勇気づけられた」と締めくくられました。

最後は、次年度開催地である石川県地域同窓会長から「いただいたバトンを皆で楽しみながら開催準備をすすめたい。来年度もぜひご参加を」と意気込みが語られました。

理事長・学長室課長　亀山　哲也

幸せの種まき

法華経を如説修行していくと
人の悪口は言わなくなり
話す言葉は、聞いた人がみな、
喜びを抱くようになります。

人を元気づけ、喜ばせる言葉を
自由に使えるようになりましょう

大乗山　法音寺

編集後記

今年から「五十万巻御報恩納経　妙法蓮華経・久遠偈」がスタートします。そこで今月号から数回にわたり、『久遠偈を学ぶ』と題して顕修院日達上人のみ教えを特集します。お写経の際の参考になれば幸いです。

かつて山首上人さまがご法話で紹介されたマザーテレサの言葉が印象深く心に残っています。「思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから」

裏返せば、思考を変えれば、言葉が変わり、行動が変わり、習慣が変わり、性格が変わり、運命が変わることになります。

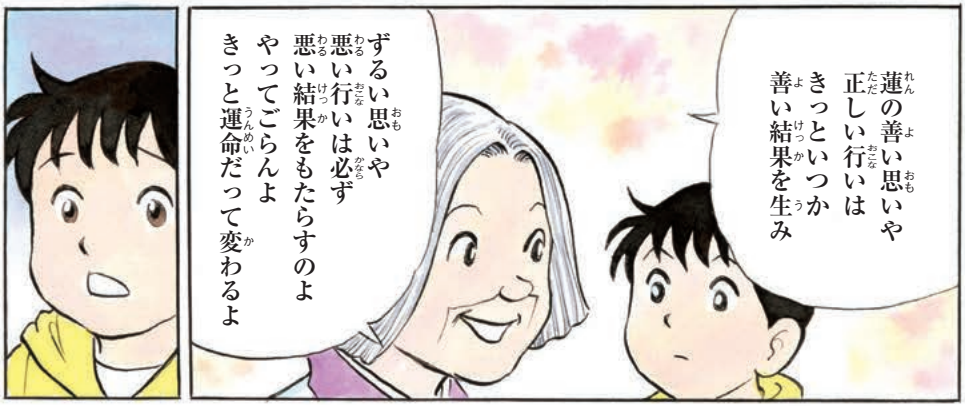
私達は法音寺三徳の教えを軸に思考を変えることから始め、運命を変え、先師の御恩に報いられるような「我此土安穏」な世界をめざしましょう。

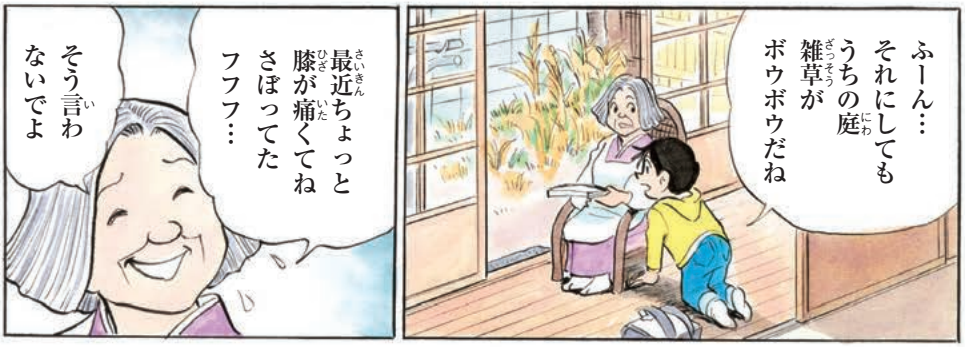
ひまわり #108

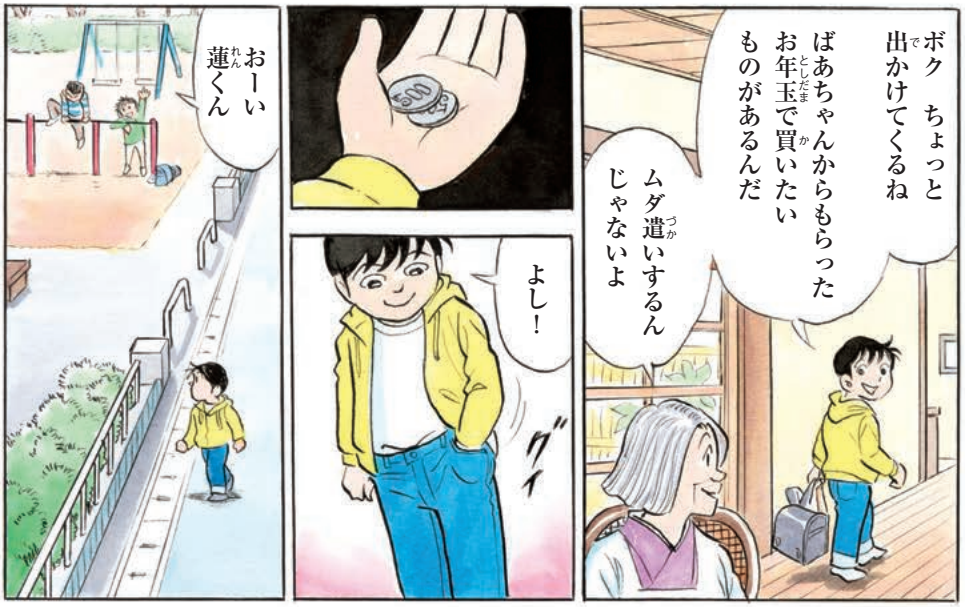
運命

竹中 淳

きっと大人になってもずーっとウッカリの運命なんだろうなぁ
だったらその運命変えたら？
ばあちゃん　運命って変えられないのが運命なんじゃないの
そんなことないさ
えっ運命って変えられるの？
運命ってね一日一日の積み重ねが作り出すんだよ
日頃の心掛けや行いが蓮の運命を決めるのよ
花も　種をまかなきゃ花は咲かないし実もならないように幸せな未来を望むのなら　善い種をまくんだよ
種をまけば運命を変えられるの？今すぐボクまくよ
そうじゃなくてね
善い種というのは善い思いとか善い心掛け善い行いのことをいうんだよ


蓮の善い思いや
正しい行いは
きっといつか
善い結果を生み
ずるい思いや
悪い行いは必ず
悪い結果をもたらすのよ
やってごらんよ
きっと運命だって変わるよ


ふーん…
それにしても
うちの庭
雑草が
ボウボウだね
最近ちょっと
膝が痛くてね
さぼってた
フフフ…
そう言わ
ないでよ


ボク　ちょっと
出かけてくるね
ばあちゃんからもらった
お年玉で買いたい
ものがあるんだ
ムダ遣いするん
じゃないよ
よし！
グイ
おーい
蓮くん

おっ 飛行機跳び ボクも入れて！
タァ！
行くゾ
オレ ここ！
勝った！
じゃ ボク帰るネ
ボクも帰る本屋に行かなきゃ
！ あ
ない！
ばあちゃんからもらった大事なお年玉…
あ～ どどうしよう
よく見てみろよ… いくらだ？
千円だよ ポケットから落ちたのかな
落とすとしたらこの辺だろうな
ないよ～
やっぱりボクは物を失くす運命なんだ
何？それ 落ちついて捜せばみつかるさ

あ

あったぞ！

千円札!?

落としたの千円なんだろ

ボクが失くしたのは五百円二枚だもんそれボクのじゃないよ

もらっとけばいいじゃん同じ千円なんだもん

えっ　何か違わないか？

かわいそうな蓮に神さまが恵んでくれたのさじゃあな

ボクが千円失くしてだれかが落とした千円をボクが拾った…え？いいのか？

じゃその落とし主はボクのように必死で今この千円札を捜してるはずだ

ダメじゃないか…

この千円はだれかにもらった大切なお年玉の千円かもしれない

捜している
ような人…
いないな
北一色交番
すみませーん
どうした
ボウヤ
あの…そこの
公園で拾いました
詳しく聞かせて
くれる？
そうか…
このおばあちゃんも
公園で千円
落とされたんだよ
じゃ これは
おばあさんの
だね きっと
ボウヤも
千円落としたんだろ？
ボウヤのかも
しれないでしょ

これは絶対に
ボクのじゃないよ！
ボクが落とした千円は
五百円玉二枚だから

ボウヤ　正直に
話してくれて
ありがとう
キミの千円も
届けを出すといい

ただいま

千円のこと
母ちゃんに
話したら
叱られちゃった
友達を
そそのかすん
じゃないって

おそかった
わね

タケルくんよ
電話！

もしもし
タケル？

蓮　今日のこと
謝りたいんだ

ああ
それなら
心配ないよ
今　交番に
届けてきた

そうか…
よかった

ばあちゃん
今日教えてもらった
ばかりなのに
ボクずるい思いを
めぐらせちゃったよ

もう一度
やり直したいんだ
悪い未来なんて
いやだもの

蓮！
おフロ
ハイ
チャリーン
？

翌朝
日曜日
蓮！

ばあちゃん
すぐに種が
まけるように
しとくからね
そりゃ
すまないねぇ
ありがとうね

あ　そうだ　昨日
蓮のジーンズの
裾からこれ
出てきたわよ
ガラ

おしまい

令和４年・法音寺年間行事予定表

月	日	曜	行　　事	月	日	曜	行　　事
1	1	土	新年祝祷会	7	7	木	講　日
	2	日	〃		17	日	講　日
	3	月	〃		24	日	ほうろく加持・虫封じ
	7	金	初講日・交通安全祈願会		27	水	講　日
	17	月	講　日				
	27	木	講　日(宗玄大徳御祥月命日法要)				
2	7	月	講　日	8	7	日	盂蘭盆会・講　日
	17	木	講　日		17	水	講　日
	20	日	報恩講習会		20	土	育成キャンプ(～21日)
	27	日	講　日　(※)		27	土	講　日
3	7	月	講　日	9	7	水	講　日
	17	木	講　日		11	日	報恩講習会
	21	月	春季彼岸会		17	土	講　日
	27	日	講　日		23	金	秋季彼岸会
					27	火	講　日
4	3	日	青少年育成道場	10	7	金	講　日
	7	木	講　日・釈尊降誕会		9	日	全山一斉清掃奉仕
	10	日	報恩講習会		17	月	講　日・御会式
	17	日	講　日		23	日	大黒・鬼子母尊神祭・七五三祈祷会
	27	水	講　日		27	木	講　日
	29	金	胎教児証書授与式		29	土	信教師セミナー(～30日)
5	3	火	浄心道場(～５日)	11	3	木	第39回御法推進全国大会
	7	土	講　日		7	月	講　日
	17	火	講　日		17	木	講　日
	22	日	**御開山会**		20	日	報恩講習会
	27	金	講　日		27	日	講　日・合祀供養
	29	日	**御開山会**				
6	7	火	講　日(御開山上人御祥月命日法要)	12	4	日	本尊授与式・授戒会
	17	金	講　日		7	水	講　日
	19	日	報恩講習会		17	土	講　日(日達上人御祥月命日法要)
	27	月	講　日(安立大法尼御祥月命日法要)		27	火	講　日
					31	土	晦日参り

※節分会中止により、2月の講日では厄除祈祷が行われます。

法音・令和4年1月号・No.627・令和4年1月1日発行
発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会
非売品／印刷・(株)一誠社

勇猛精進

シンビジューム

法音寺